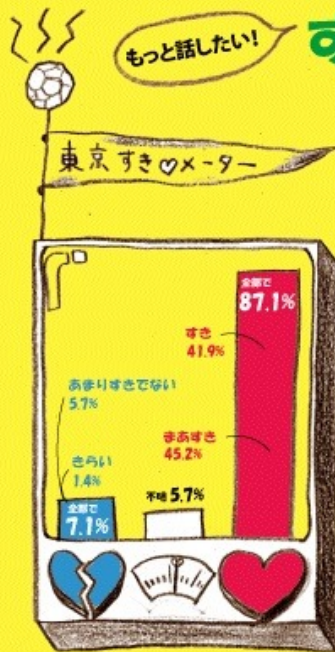


Q1. 東京は、好き？

TOKYO PLAY がきいた！ みんなの声

Q2. どんな大人になりたい？ なりたくない？



好き！
理由

- ひと** 学校が楽しい！ 先生がやさしい
友だちがいる、地域の人やさしい
- 芸能人・有名人がいる、都会だけ自然がある (10才)
- 大きな公園や児童館がある、買い物便利、日本の中心

きらい
理由

- ひと** どうせ、発言しても意味がない (11才)
- 大人に話を聞いてもらえない、思い通りにならないとキレる
- 女子高生だというだけでナメられる (18才)
- 私立なので地元で友だちが少ない (14才)、いじめがある
- 自分の意志より世間の目
- 大人が自分の意見を押しつける
- 小さい子が優先なのはわかるけど、ボール遊びをできる公園がない (13才)
- 公園に行っても、たばこを吸っているサラリーマンばかり
- トイレがきたない、人ごみが多い、うるさい、川や空気、水がきたない
- 中高生が居場所にできるのは、お金がかかる場所しかない！ (16才)

東京都内の41か所で、9～18才の279人に聞きました！！

「東京好きメーター」では「好き」という答えが多かったけれど、「好き」「きらい」もたくさんの理由が出たよ。「きらい」の理由が多かったのは、「大人のマナーが悪い」と「大人が話をきいてくれない」という声でした。たくさんの子どもたちが大人とのやりとりで悩んでいるということも分かりました。

なりたくない大人

- うるさい人・すぐおこる人、人の話を聞かない
- 目標や希望を持っていない・損得だけで行動する
- すべてをお金で解決する
- 子どもに冷たい大人にはなりたくない！
- 人を雑に扱う・差別する・自分勝手・自己中心的
- 子どもの面倒を見ない・子どもに何でもOK
- おせっかい・しつこい・そくぼくする
- 大人になっても自立できるか不安...
- 自立できない・経済弱者・ホームレス・ニート

なりたい大人

- イケメン・美人！
- 話をきける人
- 視野が広い人
- 歌がうまくなりたい
- 夢を目標に頑張っている人！
- 何事にも挑戦する人
- みんなにたよりにされる人
- お年寄りに席をゆずれる人
- 世界の戦争を止める人
- 正職員、スポーツ選手
- 仕事と遊びのメリハリ
- 金持ち・セレブ

ヘビースモーカー・ポイ捨て
泥棒・テロリスト・詐欺師



大人になることへの不安や夢、希望、決意も、たくさんきました。「今の自分がされていやなことを大人になったらしたくない」という声も多かったです。「テレビや雑誌で知ったこと」「まちで見たこと」から考えたことや感じたことはもちろん、「ステキな仲間や大人との出合い」もたくさん話してもらいました。みんな、自分たちの「まち」やまわりの大人のことをよく見ているよね。

Q3. どんな東京にしたい？



自分たちの身近な問題から社会問題の解決や世界平和まで、たくさんの話が出ました。中には、「先生の仕事をへらすことで、もう少し子どもの話を聞ける先生をふやす」(18才)という意見も。時にはみんなが出したアイデアをめぐって、熱いディスカッションになりました。

こんな方法で聴きました

このヒアリングは、2011年1月～3月に都内41か所で行いました。対象は、9才(小4年齢)～18才の子どもたちでした。1グループは、4～8人。時間は最大2時間。大人のファシリテーター(1人)と記録係(1人)が、子どもたちとテーブルを囲み、糊造紙に話したことや考えたことを貼っていききました。話しやすい雰囲気ができるように、飲み物とお菓子も用意しました。



ヒアリングで出た子どもたちの多くの意見

ヒアリングを終えて

いきなり現れた大人に、子どもたちがいきなり本音を話してくれるのは難しいだろうと考えていました。そのため、専門委員の先生たちからも、学校の授業時間でもある45分以上のヒアリングは無理かもしれないと言われていました。そこで、私たちは「建設的な意見」を求めないようにし、ヒアリングに参加してくれた子どもたちには、とにかく、「何でも言ってもいいよ」と伝えることを大切にしました。「本当に何でも言っても大丈夫そうだ」と思ってもらえると、ヒアリングの雰囲気が格段よくなりました。

そのような時には、ヒアリングが2時間になろうとしている時にも、「もっと話したい」という声を聞くことができました。

今回のヒアリングでは、子どもたちはもちろん、東京都内の児童館、学童保育、盲唖遊び場、子ども劇場、サッカーチーム、中高生の自主グループ、養護施設、グループホーム、行政機関など、様々な場所で大人の方たちにもご協力いただきました。

本当にありがとうございました。

子どもたちの感想

- ◆家で「東京いやだ!」とか言っても、どうせかわななかったと思ってたけど、今日言って良かった。(11才・♥)
- ◆ふだんおもってることがたくさんいえて楽しかった みんな意見がたくさんきけた またやりたい。(10才・♥)
- ◆言えなかったこと、モンスターペアレントにはなりたくない。東京都は好きです。行動範囲は狭いですが、ゴミが多いと思う。ゴミ箱をいろんなところにおけばいいと思います。(16才・♥)
- ◆不良の気持ちがわかる先生がいるといい、不良の話をもっと聞いてほしい。(16才・♥)
- ◆楽しかった!話しやすい雰囲気だったし、もっともっと色々なところで、色々な子どもたちにやってほしい。できればここで出た意見を社会に役立ててほしい。(18才・♥)
- ◆今日は自分で思っていることを言えてすっきりしてとても楽しかった。(11才・♥)
- ◆いままでかみがえてなかったことをかみがえてむずかしかった。(10才・♥)
- ◆色々な意見を聞いて良かった。自分の意見を言えて、いままでにない経験だった。(17才・♥)
- ◆とても考えさせられました。いま思うことは、ちよくせつぎん(東京)にいて、はなしたい。(13才・♥)
- ◆大人とか子どもとかわからないけど、いつまでも正義に生きたい。(17才・♥)
- ◆ちゃんとこの出したあんとどけてください。(12才・♥)
- ◆本音を聞いてくれる人が今までいなかったから(親でも)けっこう大変だったけど、本音が言えた!!(12才・♥)

♥…女子
♥…男子

TOKYO PLAYから大人のみなさんへ

ヒアリングを通して、
子どもたちの話から
感じたことがあります。

- 「大人は話を聴いてくれている」と感じる経験が少ない
- モデルとして共感できる大人との出会いが少ない
- 「どうせ、何を言ってもかわらない」と考えている子どもが多い

ヒアリング後の感想にあった「すっきりした」「もっとやりたい」という声からも分かるように、子どもたちは好きのように話すことで、新しい考えを思いいたり、友だちの考えを知ったりすることがうれしかったようです。私たちがどこまでできたかは分かりません。けれども、今回の調査で分かったのは、「子どもたちの声に耳を傾けること自体が、子どもたちのエンパワーメントになる」ということでした。その一方で残念だったのは、生活の中で大人の大人との出会いについて、共感的な出会いよりも反面教師的な出会いをしている子どもたちも多く見られたことでした。将来的には、子どもたちと接する機会が多い大人たちの「聴く力」を育てていく仕組みも必要とされているのではないのでしょうか。

TOKYO PLAYからの提言です

子どもたちは、生活の中で“まち”のことや大人のことをよく観察しています。そこから生まれてくる声は、今の子どもたちを取り巻く私たちの社会への意見です。「自分の声は社会にとって意味がある」と子どもたちが感じられる東京をつくりませんか?

1. 子どもの声を聴く機会を日常的・継続的に作りましょう。
2. 共感しながら子どもの声を聴くことができる大人を増やしましょう。
3. 子どもの声をたくさん大人の大人に伝え、社会に反映していきましょう。

- ◆次世代育成支援東京都行動計画(後期)の評価に係る事業の報告書は、TOKYO PLAYのホームページ、又は以下のリンクからダウンロードできます。
<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kodomom/katei/koukikaikaku/tyousa.html>
- ◆子どもたちからのグループ・ヒアリングについて関心のある方は、ぜひTOKYO PLAYまでご連絡ください。
TOKYO PLAY公式サイト:<http://tokyoplay.jp/> Facebook:<https://www.facebook.com/TOKYOPLAY>

TOKYO PLAYから子どものみなさんへ

ボクたちといっしょに
考えよう!

自分たちの声をもっとたくさんの人たちに届けてみませんか?
自分たちの話をきいてくれる大人の人たちは身の回りにいますか?そんな大人の人たちに協力してもらいながら、たくさんの人たちに伝える企画をつくってみませんか?必要なことがあったら、TOKYO PLAYも協力します。
みなさんの連絡を待っています!

連絡先:info@tokyoplay.jpにメールをくださいな。



専門委員会のみなさん

この事業では、専門委員会を設置し、この分野での6名の専門家の方にご協力いただきました。

〈委員長〉柏女 登峰氏(湘南大学社会総合学部教授)・森田 明美氏(東洋大学社会学部教授)・岡 健氏(大妻女子大学家政学部児童学専攻教授)
安部 芳純氏(早稲田大学非常勤講師)・西野 博之氏(川崎市子ども夢パーク所長)・荒田 昌輝氏(プレイソーシャルワーカー、東洋大学)

※掲載は2011年1月時点

TOKYO PLAYとは...

「すべての子どもが豊かに遊べる東京」をめざして、2010年に設立されました。子どもの「遊ぶ」をテーマにしたプロジェクトを展開しています。



1. 公園の看板について考える「やめ×やめプロジェクト」
2. 子どもの遊びは大切? 10,000人アンケート
3. 遊ぶことの大切さを考えるキャンペーン「どうきょうプレイヤー」(ロンドンでの「Playday」(2011年)の様子です。)
4. イギリス・ロンドンにある「London Play」は姉妹団体

「次世代育成支援東京都行動計画」

平成15年に政府が定めた次世代育成支援対策推進法に基づき、特定事業主が定めることを義務付けられた行動計画として東京都が策定したものです。平成17年4月1日から平成27年3月31日までの10年の時限立法として、次世代を担う子どもたちが健やかに生まれ、かつ育成される社会を目指すことを目的としています。前期5年で見直しを行い、後期5年が計画されます。今回のヒアリングは、「次世代育成支援東京都行動計画(後期)の評価」に子どもの視点を活かすための意識調査として実施されました。調査の一環として、「子育てのひろば」を利用する保護者100人についても、意識調査が実施されています。

